

様式第2号（第9条関係）

会議録

会議の名称	令和7年度第3回ふじみ野市地域自立支援協議会			
開催日時	令和7年11月21日（金） 開会時刻 午後2時 閉会時刻 午後4時			
開催場所	大井総合福祉センター4階 多目的ホール			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	会長	中島 修	委員	岩長 泰志
	副会長	柳川 道子	委員	加藤 千春
	委員	佐藤 麻由美	委員	野原 眞二
	委員	小菅 友美	委員	太田 肇
	委員	河田 智美	委員	小沢 香里
	委員	大川 空湖		
会議の議題	(1) 第3期ふじみ野市障がい者プラン策定に係るアンケート調査票について (2) 部会報告			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	3人			
会議の内容	別紙のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	福祉部障がい福祉課			
議事の確定	確定年月日	令和7年12月19日		
	記名押印 又は署名	役職名 会長 中島 修 ㊟ ※自署の場合は、押印不要です。		

発言の要旨

発言者	議題 ・ 発言内容
事務局	開会
事務局	会長・副会長の選任 会長・副会長の選任について、意見等あるか。
小菅委員	引き続き、中島委員に会長を、柳川委員に副会長をお願いしてはどうか。
事務局	意見等あるか。 (意見等なし、会長に中島委員、副会長に柳川委員を選任)
中島会長	会長あいさつ
柳川副会長	副会長あいさつ
事務局	議事 1 (資料に基づき説明)
中島会長	意見、質問等はあるか。
太田委員	市内に障害者手帳所持者は何人いるか。
事務局	令和 7 年 3 月末時点で、身体障害者手帳が 2,682 件、療育手帳が 837 件、精神障害者保健福祉手帳が 1,230 件の合計 4,749 件であり、総人口に対する割合は 4.15%である。
太田委員	前回調査では WEB 回答者はどれくらいいたか。 市としては、WEB での回答と紙での回答どちらが良いのか。 WEB での回答を促したいのであれば、調査票の回答方法の表記順を変えた方が良いのではないか。 WEB で回答してもらうことで、集計などのコストをカットできるのではないか。
中島会長	前回調査の回収率は、障がい者が 41.9%、障がい児が 47.2%、一般が 40.5%であった。このうち障がい者調査については、WEB 回答率が 20.2%であった。
事務局	WEB 回答にすると若い人の回答率が上がる傾向がある。 集計に係るコストという点では、市のコストは変わらない。 幅広い年代に回答してもらえよう郵送回答と WEB 回答の併用にしているが、国勢調

	<p>査のように WEB 主導にしていくのか、庁内の他部署とも連携を図りながら確認などを進めていきたい。</p>
太田委員	<p>市が実施する他のアンケートの対象になった人は、1年間くらいは他の調査対象にならないと聞いたことがあるが、そうなのか。</p>
事務局	<p>一般市民に対する調査に関しては、市民の負担軽減のため同じ年度で複数の調査対象にならないよう配慮しているが、障がい者調査・障がい児調査についてはこの限りではない。</p>
小菅委員	<p>視覚障がいの方が調査対象となった場合、音声ガイドや点字でのお知らせはされるのか。</p>
事務局	<p>家族介護者がいる、障害福祉サービスを利用している方が多いと考えられることから、家族や支援者からの問い合わせ等を基に対応していく予定である。</p>
中島会長	<p>発送段階で、視覚障がいの方に送付されたことは分かるか。</p>
事務局	<p>視覚障がい者が理由で手帳の交付を受けているというところまでは把握できる。</p>
小菅委員	<p>資料1 障がい者調査票7 ページの間 18 について、知っている・知らないの他に、相談したことがあるかも回答してもらうようにしてほしい。</p>
中島会長	<p>もう少し踏み込んだ情報もほしいので追加した方が良いと思う。</p>
事務局	<p>選択肢の右側に1列追加する形で検討したい。</p>
加藤委員	<p>問18の選択肢について、ジョブスポットふじみ野は障がいのある人も利用はできるが、主な対象は生活保護受給者であり、相談も予約制である。選択肢として適切ではないと思う。</p>
事務局	<p>庁内の委員から意見があり追加したものだが、追加に際しては事務局でも意見が分かれたところであったので、削除する。</p>
中島会長	<p>前回の調査からコロナ関連の設問を削除していると思うが、ほかに変更した点はあるか。</p>

事務局	コロナ関連の設問のほか通学に関する設問を削除し、各種手帳の等級、就労に関する困りごとやサービスの利用意向、余暇活動の状況を問う設問を追加している。
柳川副会長	地域の民生委員もやっているが、最近是不登校の相談が多い。子育て支援課で対応しているが、不登校の問題をどのように取り上げるか。支援学級の中学生の半数近くが不登校という話も聞く。他の市町村の取組も調べているが、発達段階から関り連携して学校に戻す、繋いでいくことが多い。アンケートに追加するのは難しいと思うが、不登校のことも念頭に置いて考えた方がよいと思った。
中島会長	発達障害等が理由で不登校になるケースは多いと思う。障がいがあることによる不登校の課題はこれまでアンケートに入れてこなかった。 制度の狭間で難しいが、調査票に入れるのが良いのか、また項目などはどうするか。
佐藤委員	普通学級で不登校になり、障がいがあるのではないかとこのことで相談に来て初めて判明するケースが多いように思う。障がいに対する親の認識も薄いことがある。 障がい児の調査票よりも一般市民調査票に入れるのが良いと思う。
小菅委員	事業所調査の対象として、特別支援学級も入れてはどうか。
中島委員	事業所調査の対象に学校は入っていなかった。対象を広げられると良いと思う。
事務局	障がい者プランの中で教育の推進があり、学校教育課の主な取組を掲げているので、学校教育課にヒアリングするというところでどうか。
中島会長	不登校の問題は現状を把握しておきたい。 調査票の修正なく対応できるため、ヒアリングが良いと思う。団体ヒアリングの対象に特別支援学級を追加してほしい。
佐藤委員	医療的ケア児についての相談も最近多い。 重症心身障害児ではない、シャントが入っているだけで手帳は持っていないなど、医療的ケア児ではないが特別なケアが必要で困難を抱えていると思う。 こうした子や保護者の意見も拾っていききたい。
事務局	ご意見をいただいたような例の場合は、事業所調査の自由記入欄で把握し、個別にヒアリングを実施することで意見を拾えるよう検討したい。
中島会長	少数ケースについては、今回のアンケート調査のような定量調査で把握するのは難しい。個別にヒアリングを実施してほしい。

	<p>調査票については、概ね了承いただいたと思う。障がい者調査票の問18は修正し調査を実施する。</p> <p>議事2</p> <p>相談支援部会長(小菅委員)</p> <p>相談支援部会では、10月15日に市内相談支援事業所連絡会を行い、連携強化型(連携)について意見が出た。</p> <p>10月23日に部会を開催し、連絡会で出た意見、部会で協議したが、相談支援事業所を増やすことが優先ではないかと意見が出ている。</p> <p>事業所を増やすことでセルフプラン率の減少につながる。</p> <p>また、強化型については地域生活支援拠点の進捗状況や説明を聞く必要がある。</p>
中島会長	<p>地域生活支援拠点等事業は進んでおり、ふじみ野市は面的整備型で進めていると思うが、事務局から補足をお願いする。</p>
事務局	<p>計画相談支援・障害児相談支援を強化型で実施することで、報酬単価を上げていきたいということだが、市内の相談支援事業所は兼務でやっている状況が多いことから、1事業所で強化型の報酬を算定することは難しいため、連携強化型で実施できないかということである。</p> <p>将来的には連携していくことが必要だが、まずは相談支援事業所が増えていくことで体制づくり、ネットワークを作っていくという結論になった。</p>
就労支援部会長(河田委員)	<p>就労支援部会では、8月25日に第1回部会を開催し、特別支援学校の先生と就労支援部会員による意見交換を行った。</p> <p>9月20日に初の試みとなる、市内就労系事業所の合同説明会を実施し、12事業所に協力いただき、延べ29人に参加いただいた。</p>
中島会長	<p>就労系事業所のネットワークを作ってください本当にありがたい、素晴らしいと思う。昨年度の自立支援協議会で議題にあがった、特別支援学校と事業所の両方で共通のアセスメント票を使いアセスメントをするというのはスムーズに動いているか。</p>
事務局	<p>共通のアセスメント票を使って評価をし、様々な意見をいただいた。</p> <p>卒業生のアセスメントも実施できたのが大きかった。今後も状況を踏まえ検討しながら進めていく。</p>
こども部会長(柳川副会長)	<p>こども部会では引き続き、医療的ケア児の移行期(就学・進学時)の問題を議論している。</p> <p>ふじみ野市には専門医がいるので心強い。今後、重症心身障害児は増えていくと思う。実際はソーシャルワーカーでないとこどもの状況を理解できないが、制度として繋いで</p>

	<p>いかないとその子の学ぶ権利や育つ権利を保障することができないということで、集団で勉強させてもらっているところである。</p> <p>送迎が大変なことなども含め、課題を明らかにしながら支援を充実していけたらよいと思う。</p>
権利擁護部 会長（小沢委員）	<p>権利擁護部会は前任より引継ぎ、意思決定支援の理解促進に向けた勉強会を開催することで話を進めており、令和8年1月の実施に向けて調整中である。</p>
精神部会（代理：事務局）	<p>精神部会は今年度3回実施を予定している。</p> <p>第1回を8月6日に開催し、「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの在り方」について意見交換を行った。</p> <p>地域で精神保健に関わる仲間を増やしつつ支える体制づくりを目指すという方向性を出しつつ、現在の形がこうあったら動きやすいというような話し合いをできればと思っている。</p> <p>10月下旬に第2回を開催予定だったが、現在調整中である。</p>
中島会長	<p>その他</p> <p>その他何かあるか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・第30回「ふれあい広場」の案内 ・医療的ケア児等の地域支援の体制について、9月4日に一般社団法人あいらんどと包括連携協定を結んだことを報告。 ・次回の会議は令和8年2月16日（月）14時から開催予定
柳川副会長	<p>閉会あいさつ</p>